

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 坂本 真士

研究課題		新しいタイプの抑うつ症候群に関する臨床社会心理学的研究（1）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	従来の抑うつとは異なる新しいタイプの抑うつ症候群が産業領域を中心に問題になっている。この症候群は、従来の抑うつとは異なる特徴を有している、従来の抑うつを仮定した心理学理論では説明できない現象が報告されている（例：経験したネガティブな出来事を外的要因に帰属する）。この症候群に対しては精神医学からも若干の研究が進んでいるが、発症には心理・社会的な要因が強く関係していると考えられることから、心理学からの研究が待たれる。そこで本研究では、この新しいタイプの抑うつ症候群の発生を説明する心理学的モデルを構築するとともに、新しいタイプの抑うつ症候群に関する概念を整理して心理学の観点から定義し直し、測定尺度の作成を目指す。
	研究の結果	理論的考察の結果、「新しいタイプの抑うつ症候群」を、対人過敏傾向・自己優先志向（IS-PS 特性）が高い場合に発症する抑うつ症候群であると定義した（坂本・山川，印刷中）。「勤務日には抑うつ症状が出やすく、休日には収まりやすい」という顕著な特性が指摘されているため、IS-PS 特性と勤務日／休日の抑うつ症状を測定して関係を、会社員を対象としたインターネット調査によって調べた。その結果、IS、PS 特性得点がともに高い場合、勤務日の抑うつ得点が高いが休日の抑うつ得点は低く、その落差が大きいことが示された。
	研究の考察・反省	新しいタイプの抑うつ症候群についての心理学理論をまとめられたことは大きな前進と言える。今後はこの理論の検証に向けた研究を進めていくことになるが、そのひとつとして、勤務日／休日の抑うつ症状の出現のしやすさについて、仮説を支持する結果が得られたことは重要である。ただ、未検証の部分が多数あるので、次年度以降の課題としたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	研究発表 日本心理学会 第 83 回大会公募シンポジウム SS-086 新しいタイプの抑うつ症候群への心理学アプローチ —「新型うつ」とは何だったのか— 令和元年 9 月 13 日 立命館大学大阪いばらきキャンパス（茨木市）	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 坂本真士・山川樹（印刷中）対人過敏・自己優先型抑うつの提唱：「新型うつ」の心理学理論 日本大学文理学部人文科学研究 所 研究紀要。	